

晴れた日には出かけよう！  
～まちのミリョクを再発見!!～

18

さんじんしゃ  
水口の山神社



みのくち  
大久野の水口に「山神社」という古いお社があります。

山神社は、北大久野川の中流域、大久野の水口にある小高い山の上に建っています。その本殿は『山祇社本殿（水口の山祇社本殿）』として昭和53年(1978)に町の有形文化財（建造物）に指定されました。



山神社を守るために睨みをきかせる狛犬

山祇社とも呼ばれる山神社は、山の神である大山祇命おおやますみのかみを祀った神社で、日の出町では新井の白山神社、坂本の神明社と並んで創建年代が古い神社です。

大山祇命とは、日本中の山を管理する総責任者にあたる神様ですが、山は水源やひいては田の稔りにも影響するので、地域によっては水の神や田の神としても信仰されています。当地の山神社は、建立以来、水口・長井の人々に土地の鎮守として人々の暮らしを見守る産土さまうぶすなとして親しまれています。

その起源は弘仁14年(823)まで遡り、流星が水口の山中に落下したときに川上隼太盛重かわかみはやともしげが神託を受けて建立したとされています。このときの流星は月星石げっせいせきといわれ現在まで語り継がれています。やがて天正7年(1579)になると、長井寺の住僧が夢の中で「越前国永平寺の鎮守白山権現をここに祀りなさい」というお告げを受けて、相殿に白山権現を合祀したそうです。

本殿は、元禄13年(1700)に類焼した際に再建されたもので、寛延3年(1750)には覆屋が復元建立されています。

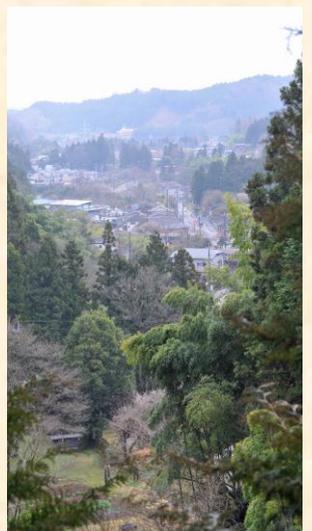
相殿に白山権現を合祀しているために二間社の流造りになっているようです。また、二間社造りの本殿というのは都内でも珍しく、他にも梁や柱などに特徴



朱に塗られた山神社の本殿

的な意匠がみられます。保存状態も極めて良好で、学術的な価値も高い建造物といえます。建物は長井と水口の有志による奉賛会によって大切に管理されています。

現在、境内には南向きに拝殿や幣殿、本殿覆屋が建っていて、その西側には末社の神明社と熊野社が祀られています。小高い山の上に経っているので、下界の喧騒がうそのように静かで、とても厳かな雰囲気漂っています。山の中腹にある鳥居をくぐり本殿へ登る参道の途中には、視界がひらけ水口から坊平、落合方面を見渡せるスポットもあります。毎年4月29日には、山神社で産土さまのお祭りが行われるそうです。



参道からの眺め

..... アクセス .....



山神社へは秋川街道「坂本交差点」から徒歩20分です。梅ヶ谷峠方面へ進み、大久野病院入口の先を右折した左手の山頂になります。

..... 日の出WALK (観光マップ) 【1-5】 .....

